

令和元年度第1回

中津川市総合教育会議 議事録

令和元年12月13日 開会

令和元年12月13日 閉会

中 津 川 市

## 令和元年度第1回中津川市総合教育会議 議事録

令和元年12月13日

### 1. 出席者は次のとおりである。

中津川市長 青山 節児  
中津川市教育委員会  
教育委員（教育長職務代理） 小栗 仁志  
教育委員 田島 雅子  
教育委員 林 由美  
教育委員 三尾 和樹  
教育長 本多 弘尚

### 2. 欠席者は次のとおりである。

無し

### 3. 事件説明のため出席した職員は次のとおりである。

総務部長 渡邊 卓  
総務部総務課長 林 行典  
教育委員会事務局長 小関 智幸  
教育委員会教育次長兼学校教育課長 小木曾 敏樹  
教育委員会事務局次長兼教育企画課長 川合 敦  
教育委員会事務局対策官 小栗 武  
教育委員会事務局教育研修所長 花田 成文  
教育委員会事務局幼児教育課長 河合 裕  
文化スポーツ部長 大巾 裕之  
文化スポーツ部次長 松井 嘉之  
文化スポーツ部文化振興課長 原 良宏

#### 4. 議事経過は次のとおりである。(午後3時30分)

渡邊 総務 部長	定刻となりましたので、これより令和元年度第1回中津川市総合教育会議を開会いたします。
	私は、司会を務めさせていただきます、総務部長の渡邊でございます。
	よろしくお願いいたします。
	本日の会議は、報告事項3件、協議事項4件、その他1件を予定しており、終了時刻は午後5時を予定しております。
	では、次第に沿って進めさせていただきます。
	最初に、青山市長から挨拶を申し上げます。
青山市長	皆さんこんにちは。
	お忙しい中、中津川市総合教育会議にご列席賜りありがとうございます。
	日頃より中津川市の教育にそれぞれの立場でご尽力を賜り、また、よりよいひとり立ちに向けて取組みいただき、ありがとうございます。
	今年は夏から台風19号、21号があり、幸い岐阜県では大きな被害にならなかったところです。
	昨年は小、中学校で臨時休校がたくさんありましたが、今年は土日が多かったので特別休校にはなりませんでした。
	全国では台風19号、21号では多くの犠牲者が出ています。亡くなられた皆様にはご冥福を申し上げます。また、被害を受けられた皆様にはお見舞いを申し上げます。
	全国的に小さな子どもが大人の都合により被害に遭うといった事件が起きています。災害だけではなく安全なまちづくり、立場の弱い年配の方も安全に安心して暮らせる街を作らなくてはいけない。そうしたことが私たちが大切にしていける取組みと考えています。
	本日は報告事項3件、協議事項として4件あります。
	来年4月1日からは下野小学校と田瀬小学校が統合してスタートします。
	来年4月を迎えるにあたり皆様には協議、地元調整していただきました。ありがとうございました。
	また、坂本こども園が同じく4月1日からスタートします。中津川市では初めてのこども園です。心配等あるかと思いますが、万全の準備をして来年の4月を迎えたいと思っています。
	本日は限られた時間ではありますが皆様に忌憚のないご意見をいただき、会議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
渡邊 総務 部長	ありがとうございました。
	続きまして、本多教育長からご挨拶をお願いいたします。

本多教育 長	<p>総合教育会議を開催していただき、ありがとうございます。</p> <p>市長さん、教育委員さんには日頃から教育の充実のために懇談をもつていただき、内容が具体的に進んでいると感じています。</p> <p>教育大綱に挙げている教育環境の整備として、夏に市内の全幼稚園、保育園、小、中学校にエアコンを設置していただきました。</p> <p>9月の残暑がありましたが、教育効果を上げています。保健室の先生から、例年よりも体調不良等で保健室に来る子どもが減っていること、運動会の練習後にぐったりする子どもが減っているという報告を受けています。</p> <p>先週、教育委員さんに坂本こども園の視察をしていただきました。工事も予定どおり進んでおり、来年春の開園に向けて準備しているところです。</p> <p>まだまだ教育課題はたくさんありますが、ご支援をいただき子どもの姿や教育の在り方についてお話をいただき、よりよいひとり立ちを目指して、進めたいと思います。</p>
渡邊総務 部長	<p>本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速ですが会議に入らせていただきます。</p> <p>なお、この会議の議長は「中津川市総合教育会議設置要綱」第4条の規定により、市長が務めることとされております。</p>
青山市長	<p>それでは、青山市長、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、要綱の定めにより、議長を務めさせていただきます。</p> <p>会議について、要綱第6条の規定により原則公開となっており、個人の秘密を保つため、又は会議の公正が害されるおそれがあると認めるときは非公開とすることができるとされております。</p> <p>本日の報告事項及び協議事項は、公開しない場合にあてはまる内容は含まれないため、すべて公開することといたします。</p> <p>では、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>次第3. 報告事項について、本日の大項目を「中津川市教育大綱について」として、「3つの基本施策」についてそれぞれ報告事項を用意しております。</p> <p>それでは、はじめに「学校規模等適正化の取り組み状況について」事務局より説明願います。</p>
川合教育 企画課長	<p>中津川市教育委員会では、「中津川市総合計画」の中期事業実施計画が開始される年度にあわせ、また、平成27年度から平成30年度までの社会情勢の変化や課題を踏まえ、平成31年4月に「中津川市教育基本計画」の2019（令和元年）から2026（令和8年）までの計画の見直し（第1次見直し）を行いました。これに先立ち、平成30年度の総合教育会議では「教育大綱」の協議をいただきました。大綱は前期の教育大綱を踏襲し、基本的</p>

な柱の部分はそのままとして、3つの基本施策に各テーマを設け、ご協議いただきましたので、その後の進捗状況を踏まえ、ご報告申し上げます。

まず、「基本施策1 教育・生涯学習環境の整備」の中から、学校規模等適正化の取り組み状況についてご報告申し上げます。お手元の資料に沿って説明いたします。

平成24年2月に「中津川市学校規模等適正化基本計画」が策定されました。その中に市が目指すべき学校規模として、小学校は1学年あたり2学級から3学級、中学校は1学年あたり3学級から4学級です。幼稚園、保育園についても、幼稚園は1学級20人以上で複数学級を維持、保育園は4・5歳児1学級20人から30人を望ましい集団規模としています。

今回は、小学校、中学校の状況について、後ほどグラフでお示しいたします。まずは、昨年説明申し上げた項目について、進捗状況を申し上げます。

令和2年4月1日に田瀬小学校を下野小学校に統合する準備を進めています。下野小、田瀬小とも現在複式となっていますが、統合することにより令和4年度までは複式学級が解消される見込みです。

今年度は、行事の調整、物品の移動、通学方法など検討を重ねております。なお、12月27日には、地域の方々や教員の皆さんにより、田瀬小学校で閉校記念行事を行いますので、お時間のある方はぜひ足を運んでください。

閉校式については、3月14日土曜日、午後1時30分から予定しております。後日、ご案内をさせていただきたいと存じます。

次に、仮称新ふくおか小学校についてですが、昨年11月に新ふくおか小学校統合準備委員会を設立し、委員会は3回行われました。その中で、学校目標「ふるさとを愛する子 やさしく・かしこく・たくましく」を決めました。現在、さらに校名、校歌、校章、通学方法等の協議を行っているところです。現4校の統合目標は、令和5年4月1日で、統合により、1年生から6年生まで2学級が確保される見込みとなっています。

ほかの地域に関しては、福岡地区と同じウェイトを注げないのが正直なところですが、少子化がもたらす問題点を地域の皆さんとしっかり共有し、子どものための教育環境をどのようにしていくべきかという課題について、これからも話し合いを継続していきたいと思っております。

幼稚園、保育園についてです。平成28年度から民営化されたこぼと保育園は、民営化前後に保育を受けた保護者の方のアンケートでは、先生方の配慮もあり不安を感じるこども、親さんもなく、民営化前の平成27年度の園児数50人が、令和元年度では80人となっています。

また、平成29年度に統合された下野保育園ですが、平成28年度、田瀬が19人、下野が27人であったのが現在49人となっており、園に活気が

出たという意見が大半ですが、送り迎への課題も報告されています。なお、坂本こども園に関しては、その他で報告がございますので、説明はそちらに譲ります。

次に、児童数、生徒数についてですが、平成24年2月策定の「中津川市学校規模等適正化基本計画」では、中津川市の目指す学校規模として、小学校は1学年当たり2学級から3学級。中学校は1学年当たり3学級から4学級となっています。

小学校については、これを児童数に換算すると231人から675人となります。令和元年度で231人以上の学校は、南、東、西、苗木、坂本です。令和6年でみると、南、東、西、苗木、坂本は継続してクリアしています。なお、福岡の4校が統合されると283人が予測され、望ましい学級数が確保される見込みです。

人数の関係でグラフを3つに分けています。大きい規模とした学校も傾向としては減少ですが、南、東、苗木は横ばい傾向です。中規模の学校は、坂下が令和4年から回復傾向を示すほかは、減少していく傾向となります。規模の小さい学校については、微減または横ばい傾向ですが、加子母小学校の児童数の減少が著しいという予測となっています。

次に中学校については、同じく生徒数の換算を行うと、315人から415人となります。令和元年度で315人以上の学校は、二中と坂本中のみです。令和6年度の予測でも、この2校が適正な学級数を確保する見込みです。

中学校は、グラフを2つに分けています。中規模以上の学校では、二中が過去の年度の変動を除けば、いずれも横ばい傾向であると言えます。

規模の小さい学校では、加子母と落合の減少傾向が目立ちます。特に落合は平成30年度までに生徒数の減少が大きかったことがわかります。令和5年以降、落合、加子母、神坂が再度下降気味となることが見込まれます。

以上、小中学校の児童生徒数の現状と予測を表で示させていただきました。報告は以上となります。

青山市長

学校規模適正化の現況について報告していただきました。

ご意見ご質問等ございませんか。

田島委員

福岡地区以外の学校に対しても適正規模の話し合いの継続を行っていくことを言われましたが、継続の方法はどんなふうでしょうか。

川合教育  
企画課長

地域の方々への説明も必要ですが、まずはPTA、保護者の方に表で示したような現状を提示しながら、特に小規模校に関しては、このまま地区の学校の児童数・生徒数が少ないままで成り立っていけるのか、それが適正な教育環境と言えるかどうかというところのご意見をいただきながら、福岡のように統合という形になれば地域の方も話し合いの中に交えて進めていき

	<p>いと考えています。</p> <p>地域で話をさせていただいても、保護者やPTAの方と地域の高齢の方々とは考え方が違うところがあるので、子どものいる年代の方々からも地域への望ましい意見を述べていただきたいというところが福岡で経験してきたことで、他の地域でも同じような形で進めていきたいと思っています。</p>
田島委員	<p>話をしている内容は伺いましたが、話をやる機会をどのような方法でつくっていきますか。何かのついでに行うのか、それとも例えば1年に1回、半年に1回といったような適正化に関する機会を定期的に設けていくのか。いかがですか。</p>
川合教育 企画課長	<p>各PTAの役員会等が年に何回か開催されていますので、そのような機会を利用して説明をさせていただき、意見を聞きたいと考えています。</p>
田島委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>計画的に全部の地域に必ずお知らせができるようにしていただきたいと思います。</p> <p>役所の方は変わっていきますが、適正化は大事なことなので置き去りにされてしまうことがないように、計画的に1年に何回とかしながら、皆さんの意識を向上させていっていただきたい。</p>
青山市長	<p>委員からいただいた意見を生かして、定期的に継続して続けていただきたいので、よろしくお願いします。</p> <p>もう1点が、地域の市政懇談会等、若い女性の皆さんと話をする中で言われるのは、何々地域に住みたかったけど、生徒数が少ないので違う地域に居を構えました。といった意見をいただくことがあります。</p> <p>年配の方が地域の活性化のためには学校が必要とよく言われるが、果たしてそれが活性化になるか。</p> <p>市外、県外から移住するときに地域を選ぶ理由として、ある程度子どもを競わせたいという考えがある方がたくさんいることを地域の皆さんにも分かっていたいただきたい。</p> <p>適正化だけではなく、地域に来ていただくにはある程度の生徒数、児童数が揃っている学校規模も必要ではないかということ投げかけていただきたいと思います。</p>
田島委員	<p>PTAの意識と卒業した方々の意識はかなり違うものがあると感じています。</p> <p>PTAの方々はわかっている危機感を持っている一方で、学校は文化であり思い出があつて残さなければいけないと考えている方々があります。その方を適正化のグラフだけでは説得できないと思います。</p> <p>その方々の生き方や考え方、生きがいを変えていかなければ難しいと思</p>

	<p>ますので、その点は文化スポーツ部の生涯学習とも一緒になりながら様々な年齢の方々が学校に頼らない生きがいを提案していくことは大事なことだと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>川合教育 企画課長</p>	<p>貴重なご意見だと思います。統合されるということは学校がなくなる地域も出てくることになりますので、年配の方々が文化、学校がなくなることで地域がさびれてしまうという危機感を持っていることは承知しています。</p> <p>文化スポーツ部とも連携をしながら取組んでほしいといったご意見をいただいたので、参考にさせていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>大巾文化 スポーツ 部長</p>	<p>教育委員会も言っていましたが、公民館を拠点として生涯学習づくりに力を入れていますので、一生懸命やっていきたいと考えています。</p>
<p>青山市長</p>	<p>学校規模適正化について他にご意見はよろしいですか。</p> <p>福岡地区以外についても、いただいたご意見を生かしながら継続して取り組むということでよろしくお願ひします。</p> <p>それでは次の学校配置の指導助手等の確保について報告願ひます。</p>
<p>小木曾学 校教育課 長</p>	<p>基本施策2 教育内容・生涯学習内容の充実の中から、学校配置の指導助手等の確保について報告いたします。</p> <p>確かな学力と基礎基本の習得のためには、年々増加傾向にある通常学級における要支援児童生徒に対して、又はいじめ不登校、問題行動というような問題発生に備えて、市費の職員を今年度では124名配置していただきました。</p>
	<p>この配置数は、2年前の資料ですが岐阜市等の大きな市には数ではかきませんが児童、生徒1人あたりの配置率にしますと県内トップクラスで、児童数5000人以上の規模の市の中ではトップの配置率となっています。</p> <p>規模が大きな市であるにもかかわらず、例えば不登校の出現率が県や全国平均を下回っています。ひとえにこのような人的配置の充実が数値に表れていると考えています。</p> <p>指導助手、特別指導助手、支援の必要なお子さんのための介助員、特別支援のアシスタント、外国籍のお子さんのための日本語指導のアシスタント等を配置しています。</p> <p>本年度については、小学校外国語指導助手として、小学校外国語のための日本人指導助手を3名配置しました。</p> <p>市教育委員会として指導助手が単独で授業を行うための年6回の研修会を行い資質の向上を図っています。</p> <p>それ以外の指導助手についても、一部授業を単独で行うという他市にはないシステムを実施しています。特に特別支援学級のお子さんのために、これ</p>

までのようにプリントで勉強するとか支援員の方が見ているのではなく、免許を持った方が授業を行っていくというようなことでさらなる充実を図っていただけるように授業の展開をしています。

ただし、全国的な課題になっている教員不足は本市でも起きています。年度途中でやめられた方とか、県費の講師に変わられた方の後任が見つからず空席になっている状況があります。

今年度までの取組みを踏まえて、来年度については指導助手というネーミングから、授業を行っていただくので講師というネーミングに変えて「さらさ講師A」「さらさ講師B」「さらさ非常勤講師」という3つの形に再編しました。

さらさ講師Aは月額20万から22万円とし、今の特別指導助手、多治見市等の非常勤講師との給与格差を考えまして、ほぼ同額にしながらい一般の教員と同様に担任はしないが授業を行うという形にしました。

さらさ講師Bは、現在指導助手で勤務しているが一部授業を実施しているという先生を対象にします。現在の月額にプラスαの待遇を改善して週10時間程度の授業を持っていただきながら、通常学級や特別支援学級のこどもたちに授業を実施していただきます。

また有能な力を持ちながら退職をされて体力的に厳しいと言われる方が、埋没してもったいない状況ですので、非常勤講師を新設して、そのような方々の力をもう一度教育現場で活躍していただきたいと考えています。

こういった再編成をさせていただきます。これによりさらに外国語指導助手を3名から7名に増員し来年度からの本格実施される小学校の新教育課程に備えたいと思います。

また、下野、田瀬の統合に関わり市の支援員をさらに配置して統合による不利益が起こらないよう、未然防止を図っていきたいと思います。

退職された先生方のさらなる活躍、そして、市で育成した小学校外国語に対応する講師等を活用しながら更なる市の教育の充実を図っていきたいと考えています。

青山市長

ありがとうございました。

配置については手厚いと自負をしています。皆様のご意見をお願いいたします。

本多教育  
長

教員が人事異動で中津川市に来ることがありますが、その教員が驚くのは市費の職員の手厚さ、一人一人を大切に伸ばしていることに驚いています。もう一つは給食がおいしいということ。

教育は人ですので、たくさんの人で面倒を見ていく、手厚く指導していただくことが大事です。そのことによって子どもたち一人一人が個性を伸ばしていく

	<p>し、不登校が減っていく、中1ギャップの解消につながっていくということ を、実施していきたいと思います。</p> <p>研修をして、指導力を高めていくことが大切で、来年に向けているところ です。</p>
青山市長	<p>さらさ講師の「さらさ」は、中津川市独自ですか。さらさドウダンから来 ているものですか。</p>
小木曾学 校教育課 長	<p>そうです。</p>
青山市長	<p>この件については、よろしいですか。</p> <p>例えば大きな規模の大垣市、多治見市、各務原市は正規教員が多いという ことはありませんか。</p>
小木曾学 校教育課 長	<p>それはありません。教員の数は定数として定められています。</p>
青山市長	<p>それでは、三つ目の市民とともに守り育てる文化活動の状況と拠点整備に ついて報告をお願いします。</p>
原文化振 興課長	<p>市民が参加する教育体制の整備の中から市民とともに守り育てる文化活 動の状況と拠点整備について説明いたします。</p> <p>はじめに各地区の文化協会の状況についてご説明します。</p> <p>まず、活動状況ですが、各協会単位で、文化祭や芸能祭などを開催されて います。</p> <p>また、地域のイベントなどにも、参加され、地域を盛り上げて頂いている 団体もあります。</p> <p>また、中津川文化協会が主催する中津川総合文化祭には、毎年、市内の他 の文化協会が招待出演され、交流が行われています。</p> <p>日頃の文化活動の発表の場として、各地区の文化施設や公民館を利用し、 地域の連帯感やコミュニティの形成に繋がっています。</p> <p>表には、市内8つの団体の、加盟団体数と会員数の状況を記載しておりま す。</p> <p>人口が減少する中、多くの協会で会員数が減少しており、会員の確保が課 題となっています。</p> <p>「課題解決の取り組み」として、昨年度、各文化協会長に集まって頂き、 それぞれの「現状や課題」「取り組み状況」などについて、意見交換会を開 催しました。</p> <p>こうした意見交換の場を継続的に設け、他の文化協会の課題や活動につい</p>

て情報交換することで、新たな活動やアイデアが生まれ、市内の文化活動の活性化に繋げていきたいと考えています。協会長の意見交換会は定期的に開催したいと考えています。

次に文化会館改修工事の進捗状況についてご説明します。

まず、工事概要ですが、工期は令和元年9月5日から令和2年12月18日までです。

建築主体工事は、(株)吉川工務店で、契約金額は525,350千円です。

機械設備工事は、ミリオン電工(株)で、契約金額は105,380千円、電気設備工事もミリオン電工(株)で、契約金額は97,880千円です。

主な工事内容ですが、「ホール吊り天井耐震工事」「耐震補強工事」「ホール座席更新工事」「トイレ洋式化工事」「屋根防水改修工事」「外部スロープ改修工事」です。

工事発注後、工期の変更に伴う、利用者説明会を10月20日に開催しました。

説明会では、工事内容に関する質問のほか、代替え施設利用についての要望などをいただいています。

具体的には、多くの中学生、高校生が出演する市民音楽祭について、子ども達の移動についてご相談をいただきました。

今年は、スクールバスにて、にぎわい広場からアートピア付知までの送迎を行いました。

今後は、安全管理に気を付け、利用者の皆様が安心してご利用いただけるよう、工事を進めてまいります。

次に、各地区の文化施設の利活用ですが、文化会館改修工事中は、各地区の文化施設や芝居小屋を利活用し、市民の文化活動発表の場を確保するとともに、幅広い分野の優れた芸術に触れる機会を損なわないよう市民文化芸術鑑賞事業についても各施設で開催しています。

資料下表に今年度の事業を記載しております。

事業を実施した地域からは、文化会館だと遠く、なかなか行くことができないので、近くでこうした事業を開催してもらえるのはありがたい、との声を頂いております。

また、事業を実施するにあたり、蛭川では蛭子座友の会の方々が、協力くださったと聞いております。

文化会館改修後も、各文化施設で市民文化芸術鑑賞事業を開催できるよう、委託事業者である中津川文化協会とも協議してまいります。

以上で、報告を終わります。

青山市長	ただいま文化活動の状況、拠点の整備について説明がありました。ご意見ご質問はありますか。
田島委員	報告の中に文化会館が改修中なので、やさか地区、加子母地区、付知地区、福岡地区、蛭川地区などで自主事業を行って、多くの方にお越しいただき盛況だったとありました。 改修後を大事にして、この弾みを地域の活性化につなげていくことが重要だと思います。 せっかく地元の公民館でやってくれたが、また文化会館に行かなければいけないのは、残念なのでこの活性化を続けてやっていただきたいと思います。
青山市長	私も同感です。先週プラスバントフェスティバルがアートピア付知で開催されました。過去に小澤征爾さんが指揮を執った施設であり、中津川市の観光大使をやっている吉鶴さんも音が良いと気に入っています。 演奏した方が驚かれる優れた施設なので、広く知っていただくことに繋がる活動は良い事だと思います。 明日、笑三郎さんも常盤座でやられるので、そちらもよろしく願います。
田島委員	教育員会でも申し上げましたが、文化会館を直すことはここに書いてあるとおりですが、中庭の雰囲気はできればもう少し情緒があると良いです。 他の施設に誇れるとまではいかななくても恥ずかしくないような状況が望まれます。
青山市長	工事に中庭は入っていますか。
原文化振興課長	入っていませんが、指定管理者と協力して少しでも良くしていきたいと思えます。
青山市長	現在の座席が窮屈ですが、何センチ広げて座席数は何席減りますか。
原文化振興課長	幅は3センチ増えて、座席数が915から842になります。
青山市長	中庭はどうですか。
原文化振興課長	指定管理の中で、と考えています。
田島委員	文化協会の中で植木をかまえる方がいます。歩きながら風情を楽しめるような、風情を感じられるようなところにしてほしい。 楽屋に行く際に通りますから、心が癒されると良いと思います。
青山市長	本庁も同じです。中庭をこのような使い方にするなら部屋を増やすように言ったこともあります。空間を活かすというのは我々のセンスではダメです

	ね。
田島委員	文化協会でお手伝いしてくださる方も遠慮している部分があります。今は草を取るだけですが、意匠を変えることもできるのですが、遠慮しています。
青山市長	中には記念樹があるかもしれないので、それだけは注意をしていただく必要があります。市役所の前の木にもそのような木があり、いきなり切ってしまうことのないよう注意しています。 報告事項については以上とさせていただきます。 続きまして、次第4. 協議事項に移ります。 本日の協議事項は、大項目を「ICT教育の推進について」として、4項目を用意しております。 それでは、はじめにタブレット、PC等機器配置の現状と推進について事務局より説明願います。
川合教育 企画課長	タブレット、PC等機器配置の現状と推進についてご説明いたします。 まず、背景ですが、現在Society 5.0と呼ばれる時代が到来しています。これは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く先端技術社会で、様々な情報が瞬時にかつ大量に入手可能であり、情報活用能力を身に付けることが、教育の現場でも重要となっています。今までは、人間が使う機械を作ったり、人間が必要な情報を取り入れたりすることに対応できればよかったのですが、これからは機械が情報を取り入れ最適な判断をして動く社会の中で生きていかななくてはいけない、そうした社会に対応できる児童、生徒を教育していくことが必要となってきます。 文部科学省では、学校でのICT環境整備を促進するため「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」を策定し、地方財政措置により整備を進めてきました。 その中で、主なものについての整備状況を説明いたします。 まず、学習者用コンピューター、これは児童、生徒用のタブレットですが、国は3クラスに1クラス分程度を目標としています。市では、児童、生徒がパソコン教室で学習しますが、小学校では児童2人に1台の整備を進めてまいりました。次の協議の項目になりますが、教室の無線LAN化も進めていますので、児童、生徒数に応じた対応も必要になってくると考えております。 資料12ページの表ですが、南小学校を例に説明しますと、普通学級数13に対し、3列目の「学習者用①タブレット数」を見ますと20台が配備されています。合計で見ますと233学級に対し707台を配備しています。 次に、指導者用コンピューター、先生が授業に使うタブレットのことですが、国は「授業を担当する教師1人1台」を目標としているところ市は、1

クラスに1台の整備をしています。同じく次のページの表で見てくださいと、南小学校では、普通学級数13に対し、4列目の「指導者用②タブレット数」を見ますと13台が整備されています。合計で見ますと233学級に対して248台を配備しています。なお、授業用とは別に職員室には、統合型校務支援システムに対応した一番右の列の「校務用PC④」が1人1台配備されています。合計で763台のノートパソコンが先生の事務用として配備されています。このパソコンは、学籍管理、出欠管理、成績管理、入試関係書類作成、学習者情報記録、週案・時数管理、保健・健康情報管理、学校日誌、グループウェア、スケジュール等を行うものです。

次に、大型提示装置、実物投影機ですが、国は「各普通教室1台、特別教室用、これは図書室や理科室ですが6台」を目標としています。今度学校を訪問された際にご覧いただけますと、大型のモニターが教室の前に設置されているところに気が付かれると思います。中には、備え付けでなく移動式のものやスクリーン形式のところもあるかと思いますが、いろいろな形のを合わせて市では616台配備しています。表では右から2列目「大型提示装置③」に各校の内訳を示させていただきました。

なお、セキュリティーに関しては、ウイルスバスターで対応していると同時に、教育に必要なページが閲覧できないようフィルタをかけて管理しています。また、児童、生徒のタブレットはメールができない設定になっています。外から送られてきたメールでウイルス感染することがありますが、そのようなことが起きないようにしています。

次に、パソコン関係事業費ですが、現状を維持していだけで小学校、中学校では年間1億円ほどの費用が掛かっています。今後設備を充実していくとなると、さらに費用が必要となってくるのが想定されます。

例えば、タブレットを小学校のパソコン教室に1人1台程度準備しようとする230台ほど増設が必要となります。

1人1台整備した場合、必要数537台必要となりますが、現在307台配備されているので230台ほどの増設が必要となります。

以上、中津川市の機器の整備状況を説明させていただきました。

こうしたICT機器を整備していくことが児童、生徒の教育環境の充実には必要であるかとは思いますが、教育振興基本計画にもありますように、基礎基本の習得とたくましい子の育成の中で、設備の充実は基礎基本の部分だけにあたると思います。

教育長が言われたように教育は人というおとり、よりよいひとり立ちができる子どもの育成につなげていくことが重要であります。機器の充実とともにそういったことも必要になってくるかと思えます。

以上で説明を終わります。

ご意見、ご提案をいただき今後に生かしていきたいと思えます。ご協議をお願いいたします。

青山市長

ただいまタブレット、パソコン等機器の配置、現状についての説明をしていただきました。それから協議事項に推進についてと書いてありますが、説明の中で1人1台とか230台足りない部分を導入していくという意味でいっているのかそのあたり確認できますか。

川合 教育  
企画課長

推進というのはパソコン教室で小学校では2人1台ですが、機器をさらに充実していくということを推進として説明させていただきました。

青山市長

この件については、意見の分かれるところかと思いますが、ご意見等お願いします。

三尾委員

協議事項は1から4までありますが、1つずつで良いですか。他にも関わるかもしれませんが。

青山市長

他にも関わる場所があれば、その都度でいいかと思えます。

三尾委員

資料中の背景を見ていて思いましたが、ICT環境を整備し、これらを適切に活用した学習活動の充実に配慮することというように文科省も言っているようですが、この部分は非常に大事であると思えます。

特にICTを活用する能力を養うのではなくて、ICTを活用した学習活動を充実させるのがメインで、そこを具体的に学習活動の充実に子どもの成長に置き換えたときに、どのように活用するのが充実なのかということを経験の中でももう少し具体的に進めていくことが必要と思えました。

例えばこれからの子どもは実体験が減ってくると思えます。遊びでも私たちが子どもの時のような、体を使った体験的な遊びが減っています。そのようなことをICTで行う。教育長訪問とか研究発表会の中でスクリーンに自分が体験できなかった体験を映し出すことで、あたかも体験したようにするといったような取組みがありました。

体験学習の1つの例ですがICTを使った具体的な学習の充実に、私たちが考えていかなければいけないと思えました。

青山市長

私も狩猟社会から農耕社会、工業社会、情報社会から続く5番目の新しい社会になるというとらえ方にクエスチョンマークをつける場所です。その先にある新しい社会に素晴らしいものが待っているようなこといわれています。ところが今でさえ子どもの虐待とか様々な事柄が起きています。

情報化と言われるが、子育てにも使いたい家庭にも応用したいというところにひずみとして生じてきたにもかかわらず、文科省はそれには触れずに新しい社会という。

何に活用するかというのが大切であって、単純に増やしていきましよう

	<p>いうのは違うのではないかという思いがある。</p> <p>ただし、そのような環境に子どもたちがついていけることを作り出す必要があるとは思いますが。</p> <p>教育では、そのようなことを議論していくことが重要な分野だと思います。</p>
田島委員	<p>国が1人1台に下さいということではないわけですね。</p>
川合教育 企画課長	<p>国が目指しているのは、新聞発表程度ですが小学校5年生以上の義務教育では1人1台を目指していると記載されておりました。</p> <p>機器を整備していこうとすると、費用の面で課題が発生してきます。</p>
青山市長	<p>先生の負担はどうですか。</p>
本多教育 長	<p>現在、授業で使うタブレットは個人で購入しながらやっています。</p> <p>今後、先生が持っているパソコンから映像を取り込むとかドリルを配付するとかいう事が起こりますので、教師用のタブレットとして授業で活用できるような環境にしていきたいと思えます。</p>
青山市長	<p>指導者用タブレット数が248台ありますが、個人と言われたのは、2つ使っているということですか。</p>
川合教育 企画課長	<p>個人で使っているパソコンはこの数字に入っていないので、教育企画課から学校に配備している台数です。</p>
青山市長	<p>配備のパソコンは使っていないということですか。</p>
本多教育 長	<p>この夏に整備されたので、それまでは個人タブレットでしたが、順次配備品に変わっているところです。現在クラス数だけありますので、それ以外の先生は同時に使えないので個人のものを使ったり、調べ物をするとき個人のものを使っているような状況です。</p>
青山市長	<p>ここからどうするかという議論に繋がっていかない。1人1台を目指していくのか、そのためにどのような整備をしていくのかというのが見づらいところがあります。</p>
小関事務 局長	<p>今後の整備の方法ですが、国は小学校5年生から中学校3年生は1人1台、高速ネットワーク無線LANの整備ということで2019年度補正予算が本日閣議決定されると報道されています。</p> <p>その段階で補助がどれだけいただけるか判っていませんので、整備の上限を考慮しながら考えていきますが、大きな流れの中では1人1台という国の方針があるので、考えていかななくてはいけないと思えます。</p>
田島委員	<p>ICTの授業を順守していけば1人1台が扱いやすいかもしれませんが、この前、加子母の学校で見たプログラミングの授業で、車を車庫に入れると</p>

いう内容でしたが、2人1台でやっていました。2人でプログラムして2人で話し合いながら、折り合いをつけながら結果を出していました。そのことはすごく良い事だと思いました。

国は1台と方針を出していますが、人と人との関わりや自分で折り合いをつけたり2人で何とかやっていくという部分は、それでは勉強にならないです。1人なら家でやれますので、学校でやるからには人と人との付き合いが人の成長ですから、このことを加味しながらやっていけるといいと思います。

国から補助金が出るからやるということではなく、中津川市の教育委員会の考えをしっかりと作ってから取り組むべきです。2人で折り合いをつけている姿を見てこの方が良いと考えました。

小関事務局長 委員にお話しいただいたように、単純にICTのためだけではなく、子どもたちの関わりといった教育の面も考えて制度の方向性を検討していきたいと考えます。

青山市長 結論を出す前に、委員の皆さんと議論していただく価値があると思いますのでお願いします。

小栗委員 これからの教育の中でICT教育は避けられないと思います。社会の中でタブレットだとかスマートフォンは、なくしては生活が成り立たなくなっています。これからの子どもたちにとっては日常に溢れ、生まれた時からあるわけです。先ほどから言われているように、台数も大切ですが、いかに使うかということです。どのように使いこなすか。使うに当たっては、例えば教科書の代わりになる。ペーパーの教科書よりもタブレットにした場合何がプラスのなるのか。子どもにとって習熟度が増すとかわかりやすいとか、いろいろあるかと思います。先生にとっては導入することによって、働き方改革につながるのか、そのようにハード的なことではなく、使うことによってソフトの部分が重要になるかと思います。教育委員会で話しを進めていかなくはないところだと考えています。

林委員 まずは台数を揃えるということよりも、どの科目でどのように使うかということが大事で、報告事項にあるように学校の規模適正化にしても適正な環境で学ばせたいという考えと同じで、タブレットも大事ですが人とか友達とか先生とどのようにかかわるかということ、日々を過ごして中学、高校、社会に行くところを経験していただくことだと思います。

タブレットは学校でなくても家にも溢れているので、学校で1人1台与える必要があるかという急ぐ必要がないかと思います。

今の子は取扱説明書がなくても先生たちよりも、習熟度が高くできてしまうので、また、孫がいる立場では物を書いて覚えるとか何度も読むといった

ような紙の大事さとか、先生から目を見て教えてもらうという時間も大事な  
ので中津川の子どもたちも、そのように育てたい。

どこにも負けない助手の先生を配置しているのは、そのような取り組みを  
深く取り組みたいということだと思いますので、先生たちの指導を期待して  
いますし、小さな町だけど、学習のレベルが高いというようにしていただき  
たいと思います。

小関事務  
局長

たくさん意見いただきまして、台数だけではなく内容を吟味して、使い方  
を考えて計画を建てていきたいと思います。

青山市長

国の施策が固まってきたときに、報告をしていただきながら議論を重ねて  
いただきたいと思います。

協議事項①についてはよろしいですか。

タブレット、P C等機器配置の現状と推進については、以上とさせていた  
だきます。

川合教育  
企画課長

続きまして、高速LANの環境整備について事務局より説明願います。

高速LANの環境整備について説明いたします。

高速LANの整備については、先日、田口文数議員から、平成31年3月  
1日現在、中津川市の無線LANの整備率が14.5%である旨一般質問の  
中で取り上げられたところです。

市のインターネットなど回線の環境は、100Mbpsで整備されてお  
り、目安としては、1秒間に5000万文字分のデータ量を得ることができ  
るものです。これはあくまで最大能力のことで、課題のところでも挙げてあ  
りますが、児童生徒が一斉に動画を閲覧したりする場合はダウンロードが遅  
かったり、パソコンが反応しない、いわゆるフリーズを起こしたりするこ  
とがあります。我々も業務でこうした経験をすることはありますが、整備目標  
は達成していても、ケースによっては、さらに上の環境が求めるかもしれま  
せん。

国が、高速LANの環境整備で求めているのは、超高速インターネット及  
び無線LANを100%整備しなさいということで、以前は30Mbpsが  
整備目標となっていました。100Mbpsとハードルが上がりました。  
市では、100Mbpsが整備されており、普通教室については、令和元  
年度中に無線LAN化が完成し、整備目標は達成します。したがって、一般質  
問の際の14.5%は、令和元年度末までには100%となります。

中津川市の環境整備の現状の表をご覧ください。南小学校を例にとると、  
普通教室数13に対し、3列目「普通教室LAN整備数」13となっており、  
合計では、233教室に対し248となっており、現在整備中の小学校もあり  
ますが、令和元年度中に全ての普通教室の整備が終わります。なお、中学

校の無線LAN化は終わっています。また、パソコン教室はすべて無線LANとなっています。今後の予定ですが、令和2年度で特別支援教室にタブレットと共に無線LAN整備を予定しています。

以上で説明を終わりますが、「①タブレット、PC等機器配置の現状と推進について」は、機器として使う道具の整備についての説明、「②高速LANの環境整備について」は、それらの機器の情報収集能力を高める環境についての説明となります。高速LANなどの回線にかかわる整備については、普段我々が業務で使用している回線も含め、市役所全体の回線にも及ぶ問題であり、教育委員会だけ別に整備することが困難な部分であります。こうした状況も含め、ご意見をいただければと思います。ご協議をお願いいたします。

青山市長            それでは2番目の協議事項、高速LANの環境整備について協議に入らせていただきます。

ご意見ご質問等ございましたらお願いします。

100%済んだということよろしいですか。

小関事務局長            今年度で100%です。

先ほど議論いただいたタブレット等と同じハード面の整備ですので、先ほどいただいたご意見を参考にさせていただきたいと思えます。

青山市長            続きまして、指導用デジタル教科書導入の効果について事務局より説明願います。

花田教育研修所長            それでは、教師用デジタル教科書導入の効果について説明いたします。

まず、デジタル教科書導入の背景について説明させていただきます。

令和2年度より、全面実施となる新学習指導要領では、授業でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら児童生徒の学力向上につなげるという方向性が強く打ち出されています。また、これを受けて第3次岐阜県教育ビジョンにも「ICT環境の整備と利活用の推進」がうたわれています。

本市の状況といたしましては、平成28年度の中学校の教科書部分改定の際に、主要5教科はすべてデジタル教科書を導入していただいています。小中のスムーズな接続も考えて、今回の改定では小学校校長会でも、「デジタル教科書の主要5科目導入」を望む声があります。

続いてデジタル教科書導入により期待される効果について説明させていただきます。

例えば、大事な個所の拡大表示、マーキング、音声での読み上げ、動画や立体図を動かすことができるため、学習障害や視覚障害、聴覚障害のある児童、生徒はもちろん、通常学級の児童、生徒の理解促進、学習意欲の向上などの効果が期待できます。また、近い将来導入されるであろう、学習者用デ

デジタル教科書への移行がスムーズに進むことも考えられます。

教師側としては、日々の教材研究の負担が軽減できるというメリットが挙げられます。

現在の導入状況及び使用状況としましては、小学校では、算数、理科。中学校では主要5教科でデジタル教科書を導入していただいております、積極的に活用がなされています。

デジタル教科書に係る予算の概算といたしましては、令和2年度、小学校への導入のために3千万円程、令和3年度中学校への導入のために2千百万円程が必要であると見込んでおります。以上で説明を終わります。よろしくお願いいたします。

青山市長

指導用デジタル教科書導入の効果について説明いただきました。

ご意見等をお願いします。

田島委員

私の郷愁ではないかと言われればそれまでですが、教師の日々の教材研究の負担が軽減できるというようなメリットの説明がありましたが、我々が教えていただいた先生方はそれぞれ個性のある方でした。その方にあこがれて先生になりたい。といった子どもたちもいたと思います。説明を聞いた限りみんな一緒だなと思います。人の工夫、先生の工夫をやっている時間は軽減できるというように思えてしまって、郷愁ということかもしれませんが、寂しいような気がします。

花田教育  
研修所長

実際の授業でどのように使うかというのは、教師の手腕が問われるところだと考えています。

教材研究の時間が短縮できるというのは、例えば国語の教科書には挿絵が入っていて、そこにあるストーリーの説明とか、子どもたちが理解されていないようなものがあります。そういったことの説明について、今まではパソコン等で探すとか図書館で探すということをしてきましたが、デジタル教科書にはそういった説明が載っているの、そこを使いたいと担当教師が考えれば、そのまま使えるという意味で時間が短縮できるということです。

三尾委員

デジタル教科書は、今までもある程度のものは学校で使うことはできていましたが、デジタル教科書も受け身的な使い方をしてしまうと、子どもたちの学習能力がデジタル教科書から教えてもらうような学び方になってしまうような気がします。子どもたちが主体的にデジタル教科書を使うというのはどのような使い方かということを教員が研修で身に付けていけない。デジタル教科書が表面的に、簡単に学べるものという感じを受けてしまうので、その辺が課題かなと感じました。

余談ですが、テレビのニュースでアナウンサーも主要5教科と言いますが、ほかの教科は主要ではないのかと思ってしまいます。

	<p>主要5教科以外でもデジタル教科書を使えるような環境も大切ではないかと思いました。</p>
青山市長	<p>中津川市では主要5教科という言い方はやめましょう。</p>
花田教育 研修所長	<p>新学習指導要領では、よりアクティブに能動的に学ぶという方向性が示されています。デジタル教科書もそのためのツールと捉えています。</p> <p>そのような形で授業を進めていくためにも、まずは先生達がデジタル教科書とは何かということを理解していただくことが大切だと思っており、講師を招いて1月から3月にかけて各学校の教員を集めて研修を行っていきま すし、教育研修所でも受け身にならない指導の仕方の研修をしていきたいと 考えています。</p>
田島委員	<p>質問ですが、気になったことはスマホですぐ調べられますが、その知識は 定着しないし、覚えられない。そのような現象が起きているような気がしま す。</p> <p>調べたものが定着するのならば皆さんすごく知識が身につくはずですが、 そうではない。簡単に調べたものは、定着しない、調べたものをまた調べる というようになっていると思います。</p> <p>苦勞して調べたものは、苦勞した過程もあるので知識として定着する。 このような考えは私の思い込みでしょうか。</p>
花田教育 研修所長	<p>委員の言われるとおおり、例えばカーナビで調べると道を覚えられないとい うのもあるように感じます。</p> <p>デジタル教科書を使うからといって、簡単に覚えられるとか、簡単に学習 できるということではなく、子どもの主体性が一番大切になってきますし、 中津川市も持続性、繰り返しを大切にしていますので、デジタル教科書を使 っても大切にしていかなければならないと認識しています。</p>
青山市長	<p>デジタル教科書をどのように使うということですね。</p> <p>そこのところを大切にしてください。よろしいですか。</p> <p>では、令和2年度からはじまるプログラミング教育についての協議に入ら せていただきます。</p>
花田教育 研修所長	<p>まず、実施の経緯といたしましては、情報化の進展による将来の予測が難 しい社会においては、情報や情報技術を主体的に活用していく力が求められ ています。それに伴い、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても、 「プログラミング的思考」などを育てていくことが必要であると言われてい ます。そのため、新学習指導要領では、小、中、高等学校を通じて、プログ ラミング教育の実施を発達段階に応じて位置付けていくこととなりました。</p> <p>小学校プログラミング教育のねらいとしましては、「プログラミング的思</p>

考」を育むこと、簡単に言いますと論理的思考力ということです。プログラムの働きや良さ、情報社会がコンピューター等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにすること。

コンピューター等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むことなどが挙げられます。

導入に関わる市の課題といたしましては、プログラミング導入に関わるカリキュラムの整備、導入に向けて教職員の理解を更に深めるための研修の実施、ICT機器等の整備、プログラミングでコンピューターを制御していることが実感できる教材の整備などが挙げられます。先ほど話題になりましたロボットカーといったものです。

カリキュラムの整備や研修の実施については、教育研修所が責任をもって進めて行きますが、機器の整備、教材の整備につきましては、市にお願いしなければなりません。特に研修所に関わる部分といたしまして、教材の購入に関わる費用が必要であると考えております。以上で説明を終わります。

青山市長

4番目のプログラミング教育について説明をいただきました。皆さんの意見をお願いします。

三尾委員

プログラミング教育は、人間の大事な部分だと思います。人間は創造的な生き物ですのでいろいろなものを過去から作り上げてきました。

これからの子どもがどのようなものを作り上げていくのかを思ったときに、コンピューター等を使いながらプログラミングをするというところに、想像力を掻き立てるといふ力もあるでしょうし、何かを自分で作っていくという想像力をつけるという力もあるし、深いところもあると考えますので、ぜひプログラミング教育、先ほどの車の話にもありましたが、子どもたちがイメージを膨らませて想像力を広げていけるといいと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

田島委員

三尾委員がおっしゃったように、大事なことだと思います。ただ、卓越した技術をつかみ取るだけではなくて、それが社会とどう関わるか、人とどう関わるかということに繋げて勉強してもらうことの方が大事だと思うので、画一化されたものではなくて、そこから流れていく、関わっていくものを大事にしてほしい。プログラミング教育に精魂込めてしまいましたが、広い目で見えて繋がりというのほどこにでも発生するものなので、先生方には連想と工夫が大事だと思います。

青山市長

それでは、今回の協議事項については大きくICT教育の推進という中で4項目を協議いただきました。それぞれが関連性を持つものでした。冒頭申し上げたとおり進捗については委員の皆様には現状の説明をさせていただき、また議論をいただく形でお願いしたいと思います。

	<p>本日用意した報告及び協議事項は以上ですので、これにて議長を降りさせていただきます。ありがとうございました。</p>
渡邊 総務 部長	<p>ありがとうございました。  それでは、次第5.「その他」に入ります。  委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言をお願いします。  それでは、その他ございますか。</p>
小栗 対策 官	<p>坂本こども園の進捗状況と今後の予定についてご説明します。  昨年の総合教育会議の協議事項にありましたように、令和元年度は建設と整備に取り組んでいます。  建設を進めております坂本こども園は、老朽化した坂本幼稚園、保育園の改築を兼ねており、幼稚園と保育所両方の良さを取り入れて、幼児教育、保育を1つの園舎のなかで行う市内の公立では初めての認定こども園です。  来年4月の開園、開所を目指して工事を進めています。  概要としまして、定員は120名の認定こども園で、1号認定、2号認定の3歳以上のお子さんの幼児教育保育を行い、市が直営で行います。事業経過は資料の表のとおりです。  令和元年度には地元説明会をしまして、3月に園舎の建築工事を始めています。  10月末時点で予定工事の54%、11月末で64%の工事の出来高となっており、計画どおり工事が進行しています。  現在、園舎木工事をしており内装仕上げ工事を進めています。  今後、園庭、構内道路、駐車場、外構工事を行い2月末に園舎が完成する予定です。  完成に際して竣工式並びに内覧会を行う予定です。  また、4月の開園に向けて条例の制定、令和2年度の新しい園児の募集が行なわれています。  開園に向けた準備を進めておりますのでよろしく申し上げます。  説明は以上です。</p>
渡邊 総務 部長	<p>この件についてご質問等ございましたらどうぞ。</p>
田島委員	<p>この間、委員の皆さんで進捗を見せていただきました。  感じたことは、セキュリティーに関することが固まっていないと思いました。  あるわけではなく、あるかもしれないということを前提に安心安全をしっかりと進めていただきたいと思います。</p>

小栗 対策 官	既存の園と比べて、セキュリティーを高められるような設計になっているかと思いますが、ご意見を踏まえて対応したいと思います。
渡邊 総務 部長	その他よろしいでしょうか。 それでは、ご意見もないようですので、「その他」を終了いたします。 以上で、本日予定しておりました日程は全て終了いたしました。 これもちまして、令和元年度第1回中津川市総合教育会議を閉会いたします。 ありがとうございました。 閉会 （ 午後5時5分 ）

---

上記の会議の経過を記載してその相違ないことを証するため、ここに署名する。

〔署名欄〕

---

---

---

---

---

---

---

---